

科学大、東京外大、一橋大の三大学連合に

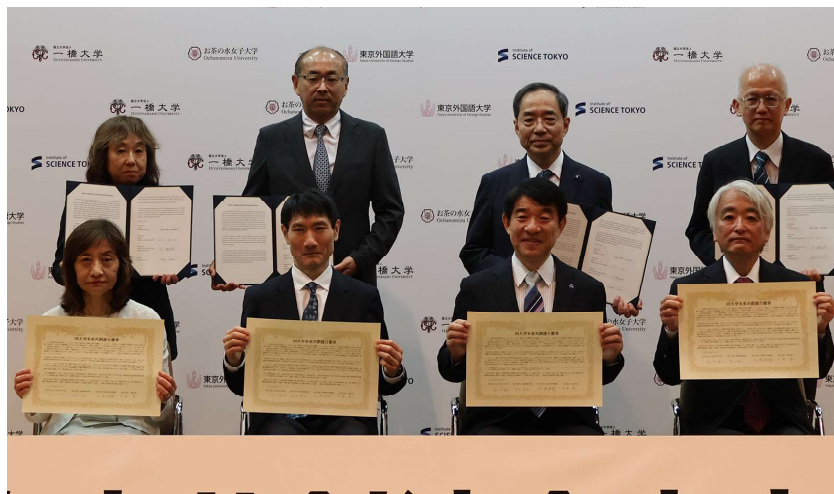
お茶大加盟「四大学未来共創連合」憲章締結式

東京科学大学、東京外国語大学、一橋大学による三大学連合は7月1日、お茶の水女子大学が新たに参画した「四大学未来共創連合」としてスタートすることを発表した。

大学連合は、2001年に東京医科大学歯科大と東京工業大(現・科学大)、東京外大、一橋大により発足。お茶大が新たに参画した

「四大学未来共創連合」は、東京の国立四大学の連携により、お互いの強みを活かした国際レベルの教育体制の確立を目指す。

四大学連合の新憲章の締結式が同日、都内で行われ、科学大の大竹尚登理事長が「三大学連合という枠組みに、お茶の水女子大学が加わることで、多様性や共創の視点がさらに強化される。より広い視点での教育と研究が可能になると非常に期待している」とあいさつ。また、お茶大の佐々木泰子学長は「時代の要請にも対応した学びと研究の環境を、連合を通じて実装し、新たな社会価値を創造する人材の育成することで、社会の要請に応えるための確固たる基盤となる」と連合参画への期待を述べた。



(前列左から)佐々木お茶大学長、春名東京外大学長、大竹科学大理事長、中野一橋大学長、(後列左から)、加藤お茶大理事、中山俊秀東京外大副学長、田中科学大学長、加藤一橋大理事(科学大・湯島キャンパス)



(左から)田中学長、大竹理事長、春名学長、中野学長、佐々木学長の今後、各大学の強みを活かした共同教育プログラム(学士・大学院課程)の設置や、共に問いを育てて取り組む「共創型」共同研究等を新たに実施予定。さらに、大学等連携推進法人の設置も目指している。